

男女共同参画の推進を！

毛呂山町男女共同参画推進会議

毛呂山町では、6人の男女共同参画推進委員とともに男女共同参画社会の推進をめざしています。

男女共同参画（子育てに関すること）

毛呂山町男女共同参画推進会議では、男女共同参画社会の推進を図るため、毎年テーマを定め、共同参画の普及啓発に努めています。

今年度は、「子育てに関すること」をテーマに啓発活動に取り組んでいます。

そんななか、日ごろ、推進委員が、子育てに関して感じたこと、経験していることを紹介します。

我が家では

中学・高校と子ども心に納得がいかなかった事の一つに、女子が家庭科の授業の時、男子が体育や技術の時間だったこと。いつもうらやましかった。いいなあ男子。

世の中がジェンダーや男女平等という動きの中、平成育ちの我が家の子どもたちは小・中・高と男女一緒に家庭科を学んできた。家庭の中で

はというと家事を頼むのはやっぱり娘、時々息子に頼む時はなぜかなぜか後ろめたい。矛盾と思いつつも心のどこかに家事は女性の仕事、母もそ



子育てに関する

男女共同参画を思つて

作家、吉川英治の言葉に「我以外皆我師匠（われいがい みなわがし）」というのがある。

子どもは、その動き・言葉の一つが我々を楽しませ和ませてくれるし、素直さを学ぶことにもなるかもしれないのである。しかし、これを受けられるのは「子どもとの関係を持つ」ことが前提にはある。個々人の条件が異なるので家庭内で話し合い、お互いのできる条件を確認し、無理のない積極的な家事・育児に各人が参加することが必要である。結果として日常的に子どもの目に映り、必然的に子育ての中での教育効

うだったし私もそうしているようにと。男女共同参画も世の中の流れも頭で理解しているつもりなのにそれとは別の感覚的なものが根付いてしまっているようだ。

成人した子どもたちが今後それぞれの家庭でどのような家事への考え方、どのような男女共同参画がなされていくのか昭和育ちの母はとても楽しみにしている。

体育大好き母

果にもなっていく。
近年は、若年性認知症という言葉も聞く。

認知症予防には「調理」が良いと言われている。男性も積極的に家事・育児に参加し、子どもとの良好な関係を維持すると共に、自分らしさを将来にわたり維持できるようにしていきたいものだ！

S・S



問い合わせ

役場総務課自治振興係

☎2095-2112内線312

